

すずき けいじゅうたく おもや みせぐら どぞう
鈴木家住宅 主屋・店蔵・土蔵

種 別	国登録文化財 建造物
登録年月日	平成 24 年 2 月 23 日
所 在 地	中 町

鈴木家住宅は主屋 1 棟とそれに付随する蔵 2 棟から成る。建築年代は、主屋と店蔵が小松橋北の大火⁽¹⁾後の昭和 6 年（1931）、土蔵は明治 15 年（1882）で、昭和 5 年に土蔵の改修が行われている。

角地に建つ主屋は、木造二階建て、入母屋造り^{いりもや}棧瓦葺き。角を隅入りとし、入母屋の妻や軒・庇^{ひさし}を段違いに設けて変化のある外観とした町屋である。

店蔵は、主屋北側に接して建つ蔵で、鉄筋コンクリート二階建て、陸屋根^{ろく}⁽²⁾である。外壁を漆喰塗、腰を戸室石貼として土蔵風に仕上げ、パラペット⁽³⁾の東側（道路に面する側）を山型として洋館風なアクセントを加えている。

土蔵は、主屋・店蔵の後方（北西側）に建ち、土蔵造り二階建て、切妻造り^{きりつま}棧瓦葺き。小松橋北の大火に耐えた土蔵で、明治期の商家の屋敷構えを伝える。

なお、鈴木家は代々絹糸を商い、明治 40 年から昭和 50 年ごろまでの 50 年以上の間、三代にわたり当住宅で絹糸業を営んできた。

(1) 「小松橋北の大火」：昭和 5 年（1930）3 月 28 日に起きた大火。小松橋北（旧小松町の中央を東西に流れる九龍橋川の北側）の大半を焼きつくした。

(2) 「陸屋根」：屋根形式の 1 つで、平らな屋根。

(3) 「パラペット」：屋上の手すり壁



鈴木家住宅 主屋



鈴木家住宅 店蔵



鈴木家住宅 土蔵